

学校選択制導入のメリット・デメリットについて

学校選択制を実施している（又は予定している）いくつかの自治体に問い合わせをしたところ、学校選択制導入によるメリット・デメリットとして、以下のような点が挙げられた。

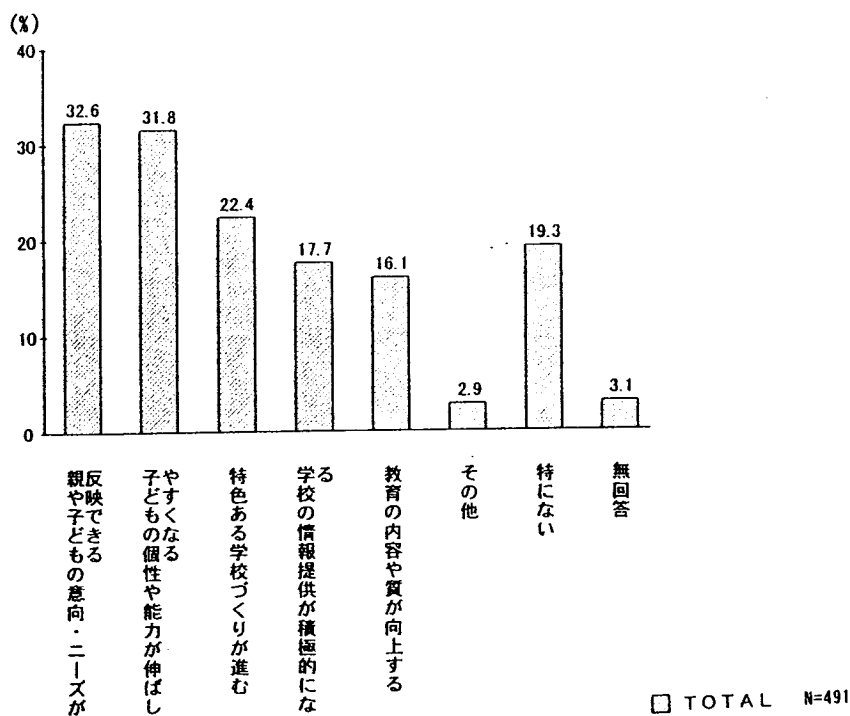
（メリット）

- 選択や評価を通じて特色ある学校づくりが推進できる
- 保護者の学校教育への関心が高まる
- それぞれの子どもが自分の個性に合った学校で学ぶことができる
- 学校同士が競い合うことによって教育の質が向上する
- 教職員の意識や行動の改革が図られ、学校が活性化する
- 学校運営のオープン化や、PTA活動、地域の活性化につながる場合もある
- 保護者の勤めとの関係や下校後の対応などの問題が解消できる

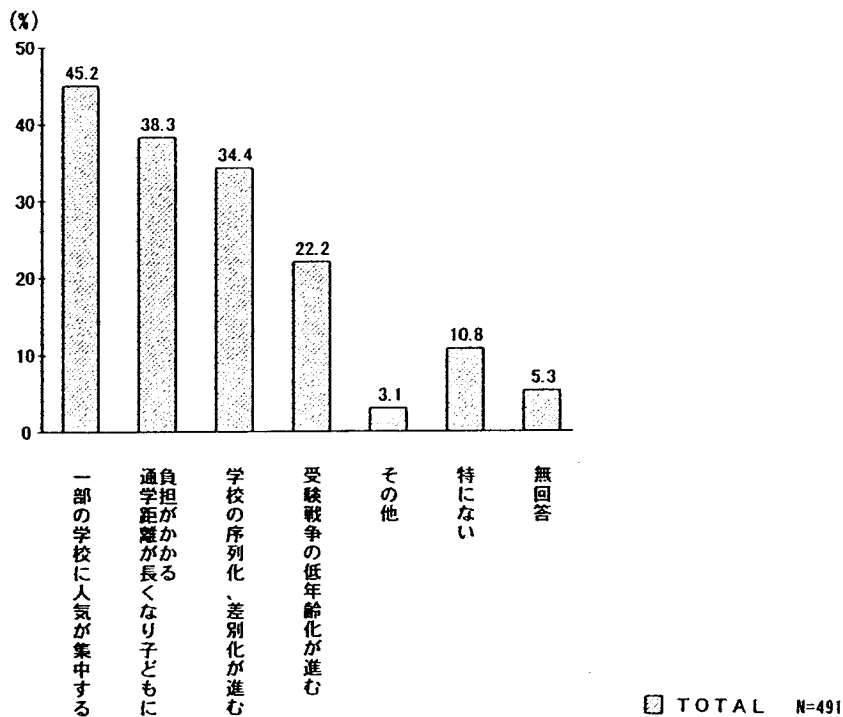
（デメリット）

- 通学距離が長くなり、安全の確保が難しい場合がある
- 学校と地域との連携が希薄になるおそれがある
- 学校間の序列化や学校間格差が発生するおそれがある
- 入学者が減少し、適正な学校規模が維持できない場合がある
- 抽選を行う学校が増加し、児童生徒・保護者のストレスが増している。また、補欠待機者の「繰上げ当選」が周辺校の学級編制を遅延させている

◆ 学校選択制のメリット



◆ 学校選択制のデメリット



出典：「平成16年度 学校教育改革についての保護者の意識調査報告書」
(平成17年3月) 社団法人日本PTA全国協議会